

## 自分の考えを持ち、表現する力を育てる「読むこと」の授業（第二年次）

— 思考の場としての「書く」活動を位置付けた単元構成の工夫—

長期研究員 車田 敦子

### I 研究の趣旨

「読むこと」の授業において、子どもたちに、文章に書かれている内容を理解するだけではなく、書かれていることを基に自分の考えを持ち、表現することにつながるような読みの力を育成したいと考え、研究を進めてきた。第一年次の研究では、単元を通して「付けたい力」を明確にし、その力の育成につながる言語活動を位置付けた。その結果、子どもたちの興味・関心を引き出し、目的意識を持たせることで、自分の考えを書くという表現へと向かわせることができた。しかし、子どもたちに、何をどう考え、どう表していけばよいのか、ということをも十分に意識させることができなかつた。そこで、第二年次は、「読むこと」の学習において、思考力を育成するという視点から「書く」活動を効果的に位置付けた単元構成を工夫することで、研究主題に迫った。

### II 研究の概要

#### 1 研究仮説

「読むこと」領域の指導において、以下の視点で単元を構想し、「書く」活動との関連を図った指導を工夫すれば、読み取ったことを基に、自分の考えを持ち、表現することができるようになるであろう。

- |       |                              |           |
|-------|------------------------------|-----------|
| 【視点1】 | 目的意識を持って読むことができる「書く」活動の工夫    | (第一次・第三次) |
| 【視点2】 | 自分の考えをつくり上げていくための「書く」活動の位置付け | (第二次)     |

#### 2 研究の内容と実際

##### (1) 「書く」活動を位置付けた単元構成の工夫

###### ① 二つの「書く」活動の位置付け

本研究においては、単元の中に大きく二つの「書く」活動を位置付けた。一つ目は、学習の目的となる「単元を貫く言語活動」としての「書く」活動である。内容の理解や解釈で終わるのではなく、読んだことを基に、目的に応じた「書く」活動を位置付けることで、主体的に考えを表現することができる

と考えた。目的意識や見通しを持たせる場合にも、「書く」活動を生かすこととした。だが、目的を明確にただけで、考えを持ったり、思考が深まったりするわけではない。主体的に自分の考えや思いを持つことができる読み方を工夫させなければならない。そこで、二つ目に、自分の読みを整理し、明確にする場としての「書く」活動を意図的・計画的に学習過程に位置付けることとした。さらに書いたものを基に、互いの思考過程を共有することで、思考を深めることができると考えた。このような二つの「書く」活動を「読むこと」の単元に効果的に位置付けることで、自分の考えを持ち、書くことができると考え、以下(図1)のような単元構成を設定した。

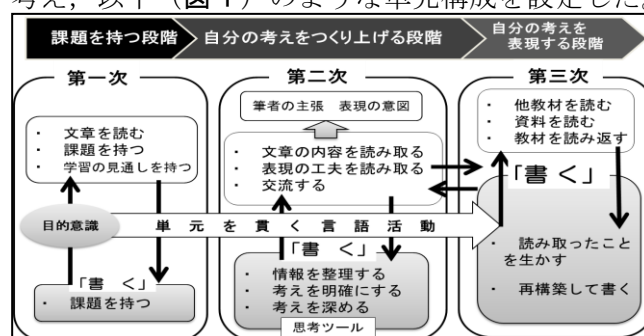


図1 「書く」活動を位置付けた単元構成

###### ② 読みを整理し、明確にする思考ツールの活用

「自分の考えをつくり上げる段階」において、思考ツール※を使った「書く」活動を設定した。本研究では、思考ツールを「自分の頭の中にある考えを可視化するために用いる手順や図など、操作しながら考えるための道具」とした。思考ツールを使った理由として、二つの効果を考えた。まず、思考を可視化することで、文章から得られる情報を整理したり、自分の考えや考える過程を明らかにしたりできる。もう一つは、友だちとの交流をより焦点化、活性化できるということである。単元で身に付けたい力や教材の特徴から、そこで働く思考を明らかにし、単元のゴールに設定した「書く」活動や子どもの実態などを考え、教師側が適切なツールを設定した。

※ 本研究では、関西大学初等部の先行研究を参考にしながら設定した。図表だけではなく、付箋やカードなども含めたものと考えた。

## (2) 授業の実際

### ① 目的意識を持たせるための工夫

対象 小学校 第6学年  
 授業実践Ⅰ「自分の考えを明確にしながら読もう」(7時間)  
 授業実践Ⅱ「わたしの考える『持続可能な社会』をリーフレットでしようかしよう」(11時間)

単元を貫く言語活動としての「書く」活動に、実践Ⅰでは、筆者の主張に対する意見文を書くことを、実践Ⅱでは、筆者の主張を基に自分の考える再生可能エネルギーについてリーフレットにまとめることを設定した。そして、書くためには何が必要かを考えさせた。例えば、実践Ⅰにおいて、意見文を書くためには、「筆者の主張や、筆者がどんな具体例をあげて根拠としているのかを読み取っていくことが必要だ」というように、具体的な学習の見通しを持たせていった。

### ② 考えをつくり上げていく思考ツールの工夫

文章の内容や表現の工夫に着目し、筆者の主張や意図を考えさせるために、思考ツールを工夫した。例えば実践Ⅱでは、操作しながら考えられるよう、ステップチャートと付箋を組み合わせて使った(図2)。

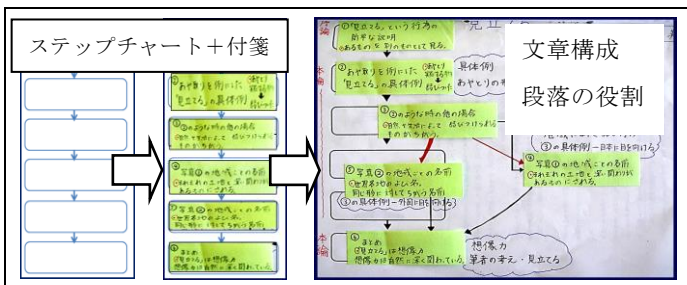


図2 思考ツールを使用した読み取り

実際には、まず、文章構成を読み取る過程で、書かれている順序に沿って内容を理解させるために、各段落の要点を付箋に書かせ、ステップチャートに並べさせた。子どもたちは、それを並べ替えながら、段落同士を関係付け、文章構成や役割を考えていき、そこから「序論→本論→結論」という文章構成や、本論が「問題提起→現状→課題→解決策」という順序で書かれている等、文章構成や展開をとらえていった。ツールに書き込んだ考えを基に、筆者の主張に向けた文章構成の意図について考え、根拠を明らかにしながら、自分の考えを書いた。さらに、友だちと交流し、話し合いを通して、まとまったり深まっ

たりした自分の考えを書き加えていった。

## (3) 実践の考察

### ① 読み取ったことが活かされた表現

実践Ⅱで、子どもたちは、読み取った文章構成の工夫などを生かしながら、リーフレットにまとめている。また、まとめるために調べた資料に、課題解決に結び付く記述がない場合にも、筆者の主張を基に、自分なりの解決策を考えて書いていた。資料をそのまま写すのではなく、自分の考えを生み出し、自分の言葉で表現していったことが見て取れる。

### ② 「書く」活動による考えの明確化

事後アンケートでは、「書くことで自分の考えがはっきりする」と90%の子どもたちが回答している。読んでいく上で、書くことを通して、自分の考えがまとまっていくよさを感じることができたと考える。

また、思考ツールの活用についても「考えがまとまる」や「言葉や文が整理される」と91%の子どもが回答している。そして、自由記述の中にも、次のような肯定的な記述が見られた。

文章構成を整理したり、段落の役割を考えたりするときにとっても役に立った。自分の考えがより分かっていった。

これらのことから「自分の考えをつくり上げていく段階」で、思考ツールを使いながら読むことは有効であったと言える。また、「リーフレットを書くときにまとめやすかった」などの自由記述から、表現することにもつながっていったことが分かる。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 研究の成果

考えを持ち、表現に結び付くような「読むこと」領域の学習の在り方の有効性を確認することができた。読んだことを基にし、考えを表現する過程のそれぞれの段階において、「書く」活動を効果的に位置付けたことで、考えを形成させることができた。

### 2 今後の課題

子どもたちが目的や課題解決に向けて適切なツールを主体的に活用できるようにしていきたい。そのために、思考ツールを使った学び方をより多く経験させることが大切だと考える。また、思考を視点とした教材分析の仕方を明らかにしていく必要がある。